

令和4年度「第2次互理町地球温暖化対策実行計画」取組結果

本町は事務事業活動に伴い排出される温室効果ガスの発生を抑制するため、「第2次互理町地球温暖化対策実行計画（令和4年3月策定）」に基づき、地球温暖化対策に取り組んでいます。実行計画の対象は本町が行うすべての事務・事業とし、出先機関等を含めた全ての組織及び施設とします。

令和4年度における取組の結果は以下のとおりです。

1. 計画の目標及び実績

令和12（2030）年度までに二酸化炭素排出量を、基準値の46%まで削減することを目標とします。基準値は平成25（2013）年度の二酸化炭素排出量とします。

単位：kg-CO2

対象	対象	基準値 (A)	目標削減量	削減目標 (B)	目標値
	二酸化炭素	2,446,198	1,125,251	46%	1,320,947

実績	令和4年度	排出量	削減量	削減率	目標達成率
		(C)	(A) - (C)	(削減量) / (A)	(削減率) / (B)
		2,250,643	195,555	7.99%	17.38%

2. 前年度との燃料別二酸化炭素排出量比較

排出要因	二酸化炭素排出量 (kg-CO2)			
	令和3年度	令和4年度	増減	増減率
電気	1,863,866	1,801,279	▲ 62,587	▲ 3.36 %
灯油	183,534	160,913	▲ 22,621	▲ 12.33 %
A重油	0	1,571	1,571	- %
ガソリン	49,291	52,940	3,649	7.40 %
軽油	11,523	13,065	1,542	13.38 %
LPガス	219,531	220,875	1,344	0.61 %
合計	2,327,745	2,250,643	▲ 77,102	▲ 3.31 %

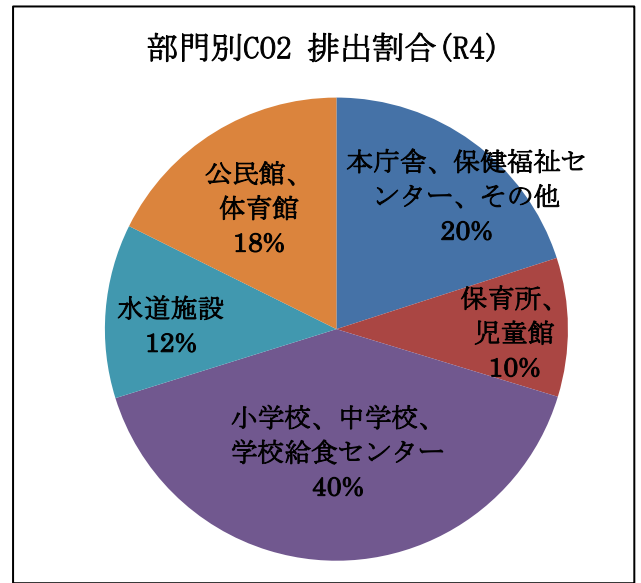
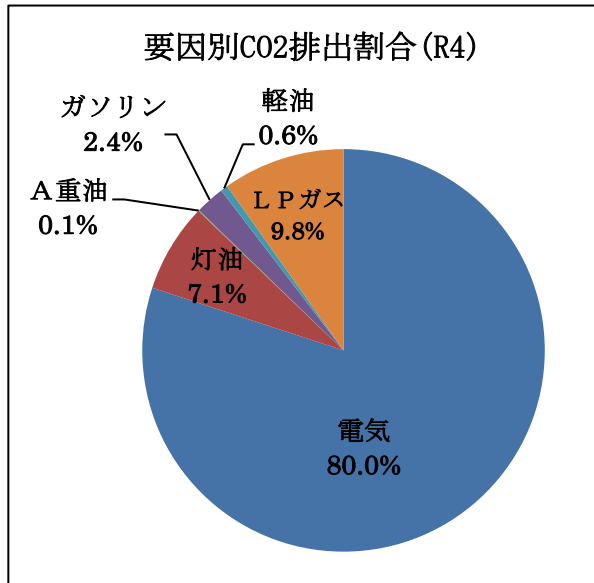
全体では前年度比で二酸化炭素排出量は減少したものの、削減目標の46%に至らず、削減率7.99%、目標達成率17.38%となりました。

前年度比で二酸化炭素排出量が減少した要因として、小中学校での電気使用量が減少しており、小中学校で節電の意識が浸透しているのではないかと考えられます。

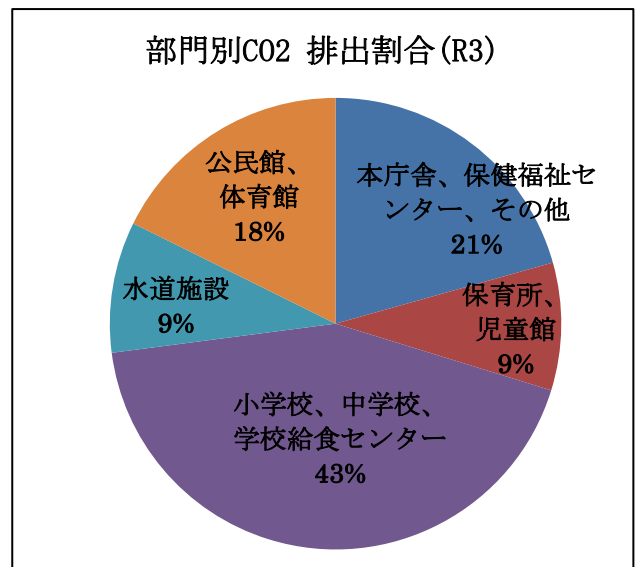
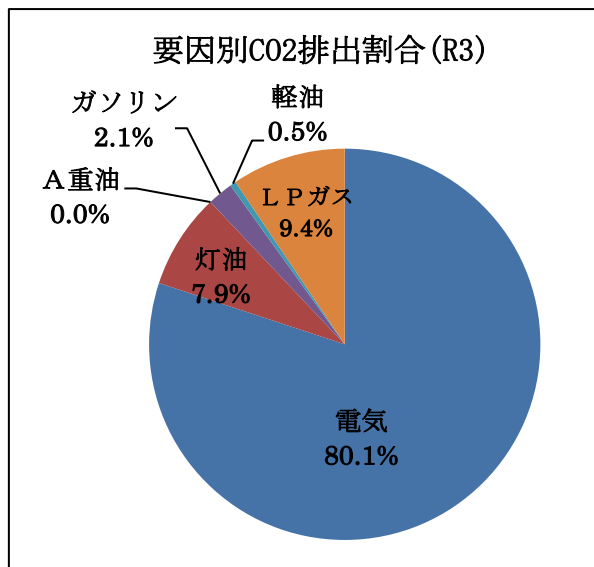
排出要因別では、電気（80%）、LPガス（9.8%）、灯油（7.1%）の3項目で全体の約97%となっており、各施設の職員一人ひとりが節電・省エネルギーなど環境に配慮した取組みを意識することがさらに必要と考えられます。

【要因別・部門別CO2排出割合】

令和4年度



令和3年度



【総排出量の推移】

